



巡礼その四十二 沖縄

2017年2月9日

4時30分起床、車で羽田空港へ行く。いつも駐車場の入り方で悩む。無事駐車して、マイセンのカツサンドを買い、チェックイン。15分遅れで那覇空港に到着。レンタカーを借りて空港を出たら、空気も匂いも完全に東南アジアで嬉しくなる。沖縄は30年ぶりでダイビングをやっていた頃は、那覇空港から南西航空で石垣、西表、宮古、久米など離島によく行った。しかし那覇の街に出るのは50年近く前の返還直後以来である。天気は小雨が降っている。目的地は首里城である。まだ人の少ない国際通りを抜けていく。国際通りは正にアジアで台湾に近い。首里城の駐車場は地下にあり、まだ車は少ない。そのまま地上に出ると守礼門である。雨は上がっていた。流石に多くはないが観光客はいる。今回の沖縄旅行の目的は、世界遺産のグスク巡りである。首里城自体が世界遺産であるが、守礼門の先にある園比屋武御嶽石門という石の門が関連遺産になっている。全く目立たないのでほとんどの人は素通りしていく。ここは国王が城外にでられる際に道中の安泰を祈願した拝所でその他、国家行事の際にも祈願した重要な御嶽への門でもんだけ残して他は失われてしまった。とても味がある門で屋根のシャチホコ（マカラ）が良い。周囲のリュウゼツランが南国ムードを盛り上げる。歓会門、龍樋、瑞泉門、広福門をとおり首里森御嶽を見学する。入口の屋根のシャチホコが良い。ここからほとんどの人は行かない「京の内」と言われる女性だけの空間（4つの御嶽がある森）へ行きます。昔は男子禁制でした。王宮広場から龍と獅子（シーサー）が素晴らしい正殿を見て、書院庭園、木曳門、久慶門、右掖門、淑順門を見学して疲れたので売店で大好きなサトウキビジュースを飲むが、これがコップに缶ジュースを入れただけの最低のジュースであった。このあと周囲にある円覚寺跡、弁天堂などを見学する。このあと首里金城町にある昔の石畳の道を散策する。とても雰囲気のある道で内金城の御嶽と大アカギの木は住宅地の中にある。よくこれだけの大きな木と周囲の森が残せたことは素晴らしい。沖縄の人たちは木をととても大切にしている。お腹が空いたが先に玉陵へ行く。人が誰もいない。ここは王のお墓で3匹のシーサーが可愛い。また墓の前の手すりの彫刻が素晴らしい。付属の博物館も見学する。ここの

前は県立首里高校（旧一高）でその隣に沖縄そばの店があったので、テビチソバとチャンプルーを食べる。駐車場へ戻り首里城からは行けない継世門を外から見学し、近くにあるシーサーを探しに行くが見つからない。次は世界遺産の識名園へ行く。駐車場には2台しか止まっていない。とても美しい庭園で本土とは植物が違うので興味深い。保存された昔の建物の中では琉球舞踊の撮影をしていた。池の小島から写真を撮っていたら、踊っていた美しいお姉さんが手を振ってくれた。首里城は流石に見学者（主に中国人）がいたが、玉陵でも識名園でもほとんど見学者はいなかった。沖縄自動車道に乗り許田 IC まで行く。ここから大宜味に行くが5時になってしまったので、目的の旧大宜味村役場には入れない。仕方がないので外観だけ写して今夜の宿オクマビーチホテルへ向かう。足が痛いのでサロンパスとシップ薬を探すか、途中薬屋が全くなく国頭村まで行ってしまう。風がすごく、道路まで波しぶきがかかる。風でアダンの木が飛ばされそうであるが、海のブルグリーンと真っ白な波でとても魅力的な風景である。「道の駅大宜味」があるので寄る。とても渋く、普通の商店である。シークワサージュース（大宜味はシークワサーの本場）とお土産のアーサー、ゴーヤチップスを買う。ホテルはとても広い敷地にあり前は美しいオクマビーチである。カートで部屋に行くのがめんどくさい。お風呂も広く部屋も問題ない。夕食はホテル内の沖縄料理の店「おかめ」を予約してある。何品か選ぶコースでテビチ、ラフテー、豆腐よう、ジーマーミー豆腐、グルクンの唐揚げ、海ぶどう、ミミガー、ゴーヤのサラダを食べる。最後にアーサーのお茶づけを食べる。部屋に戻り9時に寝る。

2月10日

5時起床、ビーチに出て写真を撮る。6時30分朝食。ビュッフェでとても充実している。面白かったのが味噌汁でお椀に鰹節だけが入っている。そこに好きな薬味を入れ、味噌を入れて最後にお湯を入れる。雨は降っていないが風が強い。まず古宇利島へ行く。雲の隙間から光が差し込みとても幻想的である。ビーチが美しいが特に何も無い。カレー大盛り300円である。今帰仁グスクへ行く。本来であれば桜の名所なので、満開ですごい人であるが、今年は異常に寒く3、4分である。沖縄の人が年に一回着るか着ないかのダウンを着ている。じっくり観察できて良い。ここのグスクは素晴らしい。3分咲きであるが桜も色が濃く綺麗である。トイレが半分オープンエアで面白い。美ら海水族館は流石にたくさんの人で溢れている。制服を着た高校の団体が多い。シンベイザメは迫力があつた。すぐ近くにあるフク木並木へ行く。タイムスリップしたように伝統の民家が集まり各々がフクギを植え、昼なお暗い並木を作っている。私的には最高の観光スポットである。空気も美味しい。途中に小さいシーサーを作っているお店があったので買う。ここから名護にある屋部の久護家へ行く。少し迷うが素晴らしい

民家で沖縄の生活空間がよくわかる。名護市役所は古くなったが色々な賞をとった斬新な建物で、いたるところにシーサーがいる。56人の職人さんが作ったシーサーはとても個性的だ。残念なことに数体破損している。ここから目的の新山ここから目的の新山ソバへ行く。ボロボロの食堂であるが麺はきしめんのように平たく、美味しい。ソーキソバとおいなりさんを食べる。さすが伝説のソバ屋である。許田 IC から高速に乗り、伊芸サービスエリアでブルーシールのサトウキビアイス、妻は紅芋アイスを食べる。石川 IC で降り、座喜味グスクへ行く。ここも小さいがすてきなグスクである。全く中世のヨーロッパの城壁である。近くのやちむん(焼き物)の里へ行く。駐車場に停めてトイレに入るが素晴らしい。洗面器の陶器のボール、琉球ガラスの壁、屋根のシーサーなど凝っている。金城次郎の長女の店で9000円の魚の絵の大鉢を買う。安慶名グスクは世界遺産ではなく、修復もされていないがとてもワイルドなグスクで急な階段を上る。すぐ隣が闘牛場である。今夜の宿はうるま市にあるココガーデンリゾートで高台にある。カートで回るコテージタイプで小綺麗なリゾートホテルである。チェックイン時に3000円プラスで広い部屋にチェンジできるとのことなのでそうする。バリ風のとても広い部屋でお風呂が大きく面白い。夕食は車で5分のところにある「栄」を予約しておいた。とても流行っているお店で美味しく、安く、モダンである。一番人気のテビチの唐揚げ(絶品)、カルパッチョ(絶品)、小アジのような魚の揚げ物、クレソンとエリンギの炒め物、揚げ出しジーマーミ豆腐、アグー豚のグリル、締めにはアグー豚と味噌の入ったおにぎり(絶品)、妻はソーメンのジュノベーゼ海ぶどう乗せ(絶品)を食べる。ホテルへ戻り、ばーちゃんのお土産のシーサーを買う。9時半に寝る。

2月11日

5時半起床、7時に朝食。ビュッフェでなんと山盛りのオレンジと絞り器がある。こんな嬉しいことはない。3杯も飲んでしまった。トマトのオムレツ、サラダ、フルーツ全て美味しい。近くに観光名所やビーチがないにもかかわらず、宿泊客が多いのも頷ける。8時出発、浜比嘉島へ行く。小さな美しい島で、シヌグ堂という御嶽へ行く。ガジュマルや大きい老木があり聖地の雰囲気漂う。小さな島(アマミチュー)も聖地であるが風が強く波が高く怖い。とても美しいところである。村を抜けて聖地シルミチューへ行く。結構きつい階段を登っていくと洞窟がある。ここは神の居住地である。現在は鉄格子に鍵がかかっている、中には入れない。島の周囲はとても美しい。本島に戻り勝連城グスクへいく。グスクはすぐわかったのだが、裏側に行ってしまう大変だった。駐車場に車を停めて案内所に入ったらおばあさんが座っていた。隣に座ったら何と精巧な人形でびっくりした。グスクの上から見る海は美しい。次の中村家住宅はとても興味のある琉球民家で昨日の屋部の久護家よりも格が上である。国の重要文化財にもなっ

ており、素晴らしい。屋根のシーサーが可愛い。前に中村家でやっている休憩所があり、そこでお茶と黒糖ゼリーを出してくれた。色々な本を売っているので、中村家の建築の本と沖縄の画家野津唯市の「懐かしい未来 沖縄」という画集を買う。中城グスクは有料で入口からグスクの上までカートで運んでくれる。とても大きい立派なグスクで変化に富んでいる。ここも海が綺麗に見える。次の小禄墓が大変であった。街の中によくこんなジャングルがあるのか、というと小禄墓ところで道路から背の丈以上の足の中を通り、500以上歩くが何も無い。沢があり川が流れているのでそっちへ行くが行き止まりで、元の道に引き返し、更に500mほど行った森の中に小禄墓はあった。小禄墓は昔の墓で特に何もありません。獅子の彫られた線香台がポツリとありました。夏ならハブに噛まれて当然のところですね。この近くに中部で一番美味しい沖縄ソバの店がありここでお昼を食べる。確かに混んでいる。麺は平面と細麺と中間の麺が入っており、少しアルデンテで肉はバラ肉が2枚と大きなソーキが入っている。うまい。ここから浦添グスクへ行く。あまり修復されておらず、公園のようになっている。摩文仁家の墓はすぐわかった。墓だから何も無い。史跡になっているが訪れる人はいないと思われる。疲れて斎場御嶽へ行く。結構距離があるが斎場御嶽への道路情報や看板は見かけない。海沿いの道を走っていくとやっと発券所に着くがすごい車の数で周りの駐車場は満車である。遠くの駐車場に車を止め、入場券を買ってから御嶽まで1km以上歩く。それも団体で。沖縄の観光客が全てここに集合したようである。中国系が多い。これでは聖地もヘッタクレもない。みんなに続いて回る。誰もいなければいろいろなことを感じたかもしれない。ホテルの帰り道に知念グスクへ寄る。斎場御嶽と違い誰もいない。海のそばに建ち、まだ完全に修復されていないがとても良いグスクである。今夜のホテルは空港の隣にできた新しいホテルで選んだ理由は天然温泉がついているからだ。日帰り温泉も兼ねているので、家族づれで混み合っている。もちろん宿泊客は無料ですぐに行く。露天風呂は赤い鉄分を含んだ温泉で塩辛い。風がものすごく、空いている。サウナに二回入って出る。7時30分に「88ステーキ」に行く。5組待っていたが並ぶ。15分待って入場。初めはステーキを食べる予定であったが、リブコース 250gに変更。スープ、サラダ、ライスが付いて 3500円であった。味付けは自分です。テーブルには塩、胡椒、A-1ソース、ガーリック醬油、ケチャップソースなどがある。ホテルへ戻り部屋の風呂に入り、10時半に寝る。

2月12日

5時半起床、風呂に行き、一人用の陶器のツボに入る。7時朝食、8時出発。まず海沿いの具志川グスクへ行く。海岸にある駐車スペースには車が7~8台止まっている。まさかこの時間にグスクに来る人がいるとは思えない。やはりグ

スクには誰もいない。海を除くとサーフィンをしている人たちがいた。なんのことはないみんなサーファーだった。次に沖縄で一番古いシーサーを見に行く。富盛の丘の上の公園（ここもグスク）に一匹いる。とても可愛い。まだ時間があるので糸数グスクへ行く。よく保存されなかなか良いグスクである。今日の目的の一つであるガンガーラの谷ツアーがある。集合30分前にガンガーラの谷に集合する。ここは鍾乳洞でカフェになっている。まだ時間があるのでコーヒーを飲む。まず説明があり、いよいよツアー開始である。お茶の入った水筒と懐中電灯を貸してくれる。参加者な20人ぐらいであった。ガイドが面白い人でとても楽しかった。この辺りは3万年前の港川人の居住地で、鍾乳洞が沢山ある。その中で巨大な男根をした鍾乳石があり、一同驚く。玉城グスクは丘の上にあり展望が良い。自然岩をくりぬいた門が面白い。大城按司の墓へ行く途中に大きなホテル「ユインチホテル南城」があり、併設の「猿人の湯」はなんと源泉掛け流しの温泉である。次回はここに泊まる。大城按司の墓は面白い形をしている。お昼になったので近くにある「琉心ソバ」という店に入る。私はソーキソバとジュシー（かやくご飯）がついている「琉心セット」妻は野菜そばを食べる。食後にぜんざい（かき氷）を食べる。この店は沖縄の人気投票で3位になった店であった。時間があつたので大里グスクに寄る。グスクの近くにあるチチンガーという井戸があり、階段を降りていくと現在も水をたたえている井戸があつた。グスクはあまり残っていないが眺めが素晴らしい。これでグスク巡りと沖縄ソバ旅は終了。レンタカーを返し空港へ。